

## 日本英語教育史学会 会報

268

2015年4月6日

**HiSET** *Society for Historical Studies of English Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

学会ウェブサイト <http://hiset.jp/>

日本英語教育史学会 (代表 江利川 春雄)

【事務局】和誠堂文庫

〒121-0011

東京都足立区中央本町5-10-22

e-mail: [membership@hiset.jp](mailto:membership@hiset.jp)

口座 (名義) 日本英語教育史学会

ゆうちょ銀行: 00150-3-132873

三菱東京UFJ銀行 千住中央支店

(普通) 0997182

## 第252回研究例会報告

2015 (平成27) 年3月15日 (日), あべのハルカス (大阪市) において第252回研究例会が開催されました (参加者48名)。

初めに第1回となる英語教育史入門セミナーが行われ, 江利川春雄氏 (和歌山大) が「小学校英語教育は戦前から行われていた」というテーマでお話しされました。研究発表は, 田畑きよみ氏 (東京大学大学院) による「明治初期の教科書調査から見た公立小学校英語教育の研究: 大阪愛日文庫所蔵教科書を中心に」でした。司会は馬本勉氏 (県立広島大学) でした。

以下に出席者の感想を掲載します。ご参照ください。感想のうち特に番号の付されたものは, ①は江利川氏によるセミナー, ②は田畑氏の発表に対するものです。なお紙面の都合上, 今回の発表と直接関わりのないコメントを省略した箇所がございます。また改行や誤字脱字等は適宜こちらで修正いたしました。ご了承下さい。

◇ ◇ ◇

◆初めて日本英語の歴史を学んですごく興味深かったです。今も昔も日本英語の課題や成果が変わっていない部分はとっても残念に思いました。明治時代から英語の授業が始まっていたにもかかわらず今も英語が話せないのは本当に残念ですね。江利川先生にたくさん当時の本をもってきていただき, 実際に見ることが出来大変うれしく思いました。重いのにありがとうございました。

現在児童英語講師をしていますので, 子供達に正しい英語を伝えられるように頑張っていけないといけないと思いましたが, これからも努力していきます。色々ありがとうございました。  
＜實光真弓＞

◆今日のセミナーを受けて, 小学校英語教育史について凄く興味を持ちました。また, 明治時代から反対論があり, 今でも反対意見もあり, 詳しい人もいないのに, 無理矢理進めて行くのはどうしたものかと思いました。

今日初めて知った知識がとても多く, 大変考えること, 調べようと思ったことの発見がたくさんありました。今日はありがとうございました。  
＜島栞奈＞

◆英語が世界の共通語であり, 戦前から小学校で英語教育が行われていた今日の話聴き, 自分が教育現場で子どもたちにどのような教育をすべきなのか, 考えることのできる良い日だった。  
＜匿名希望＞

## &lt;発表を終えて&gt;

## 小学校英語教育は戦前から行われていた

江利川 春雄 (和歌山大学)

今年 1 月の理事会で「英語教育史入門講座」の実施が決まりました。学会を外部に開き、英語教育史の面白さを知ってもらおうという趣旨からです。第 1 回目は、テーマを小学校英語教育史としました。一般の方の関心に応えたいとの思いからです。

狙いの中。学生や小学校英語にかかわっておられる非会員を多数含む 50 名近い参加をいただきました。ツイッター、フェイスブック、イベント用ポータルサイトなどで幅広く呼びかけたことも奏功したようです。ネット広報の時代ですね。

入門講座ということで、画像を多く使い、クイズを交え、資料の実物を手にとってもらえるようミニ展示も行いました。

本来なら、小学校英語を推進する行政の人たちにこそ来てほしかったです。小学校英語をめぐるでは明治以来、教師の指導力、開始年齢と時数、教材・教授法、国語教育との関係など、数多くの問題が議論され試行されてきました。歴史から学び、今日的なヒントを引き出すことが求められているのです。

発表後、馬本副会長から「小学校英語の実践者も多く来られているので、プラス面も補った方がよい」との助言を受け、最後に補足しました。氏のいつもながらの配慮・気配りに感謝した次第です。



◆①入門セミナーの第 1 回として分かりやすいお話を頂き有難うございました。非会員参加者にとって小学校英語教育史の全体像を把握しながら、そこに見られる問題点をおさえつつ、現代の状況を理解することにつながるその基礎情報を得る機会になったかと思いません。この関心がさらに学会入会に至ることを期待致します。 <Dragon>

◆①小学校英語に携わるものとして今日学んだことはとても興味を持ちました。以前から塾で教える中で、中学生でも中 3 に教えるよりも中 1 に教える方が難しいなと感じていました。ここからもわかるように、年齢が低ければ低いほど高い指導力が必要だと思いました。他にも国語力の養成と関連づけた学習が重要だと感じました。 <加藤幸村>

◆①江利川先生はいつもながら豊富な資料から分かりやすく説明してくださった。あらためて小学校英語教育の問題点が、過去にも指摘されているにも関わらず、それを解決することなしに現在行われていることを強く感じた。教育政策の責任者はもっと謙虚に歴史に向き合うことの大切さを自覚して欲しいものだ。また、英語教育史資料へのアクセス方法等も有益だった。 <JH4DGW>

◆①戦前しかも 130 年前から小学校でスタートしていて、同じような悩み、問題点があったこと、そのことがほとんど解決されていないのを感じ、我々は心していかなくてはならないことを感じた。

&lt;日下部純江&gt;

◆①とてもおもしろく拝聴させて頂きました。勉強になりました。 <加納まり>

◆①明治の小学校での英語教育導入当時と、現代の小学校での英語教育（外国語活動）での問題点が、ほとんど同じであるという事を具体例で示して頂けて非常に分かりやすく、納得ができました。それと同時に、100年以上も経て同じ問題を抱えているという事は、指導技術まで進展できていないという現実を突きつけられたような気がして、私自身の日々の努力が必要なのだという気持ちを改めて認識できました。特に興味をもったのは、初期の早期英語教育でも文法より会話そして発音を重視すべきとなっている所で、私も大学からカリキュラムの一環として神戸の小学校での外国語活動のアシスタントをさせて頂いた時も、一番気をつけた点であり、その信念は持ち続けるべきだと感じた事でした。

<岡直美>

◆①貴重なお話、ありがとうございました。今の英語教育をめぐる議論は戦前と変わらないと知り驚きました。画像資料も豊富で私のような素人にも分かりやすい発表でした。文科省の人も昔の英語教育のことを学び、同じあやまちを繰り返さないようにしてほしいものです。私は外国語活動に特化した小学校教諭になりたいと思っているので、子どもの害とならないように自分の英語力を高めていきたいです。

<森田航>

◆①今回のお話を聞いて準備ができていない小学校英語教育は考え直さないと感じます。私は四天王寺大学教育学部中学英語小学校コースに行っていますが、小学生に英語を教えるのはとても難しく感じます。英語の教員免許をとろうと勉強している人たちでも難しいと感じているのに、今小学校の先生をなさっている人に英語教育をさせるとはとても難しいと感じました。

しかし私は小さい頃からの英語教育は良いと考えるので、政府がしっかり準備するのであればしていただきたいと考えます。

<天野健太郎>

◆①とても分かりやすく楽しむことができた時間でした。セミナーのいたる所に「江利川節」が見られ、江利川先生のブレない姿勢が見られることが良かったです。また、トトロファンの私にとってはスライド最後のネコバスには癒されました。

<匿名希望>

◆①現代と同じような議論が100年前にも行われていたことに驚きました。非常におもしろく学ばせていただきました。

<匿名希望>

◆英語教師やそれを志す者には、いわゆる「国際指向性」が高い者が多いように思われますが、その一方で先進的なものばかりで過去を顧みようとしてきた者が少ないように思います。もちろん、本学会はその「過去」を顧みようとする人たちが集まって結成されたものですが、戦後70年という節目の今、この入門セミナーを受け、改めて英語教育を謙虚に顧みる必要があるのだということを確認致しました。

<上野舞斗>

◆参加人数の多い月例会となり、参加してよかったです。デジタルアーカイブ等にも多くのまだ研究の行われていない資料があると伺い、もっと活用しようと思いました。しかし、やはりオリジナルのデータをしっかり提示することも大切だと感じました。

ALTの先生を活用する難しさは、きっと今後も向き合っていかななくてはならない問題だと思いました。英語を用いた授業を行うべきだと、大きな指針が示された今、ALTと日本人教員とのコミュニケーションのとり方について考えると暗い気分になってしまいます。

<匿名希望>

◆江利川先生のご発表は聞く者の立場に立って非常に理解しやすい講義で、また、楽しいご発表でした。基本にたち帰って私も勉強しなければと思いました。

発表についても多めに学ばせていただきました。ありがとうございました。

<田畑きよみ>

<発表を終えて>

## 明治初期の教科書調査から見た公立小学校英語教育の研究 大阪愛日文庫所蔵教科書を中心に

田畑 きよみ (東京大学大学院)

今回の発表では、ほとんど解明されていない明治初期の学齢児童に対する英語教育の取組みについてお話致しました。当時の教育状況は現在とは大きく異なるため、現在の尺度で考えてしまうと正しく把握できないと思いましたが、学制頒布前後の教育事情など時代背景をまず説明しました。明治初期の学校関連史料はほとんど残されておらず、今回はその全容のほんの一部を示したのみにとどまりましたが、実際に英語の授業を受けた人の自伝や英語教育について記録された学校沿革誌を含め英語関連の史料を紹介致しました。英語教科書もなく英語教授法も確立されていなかった時代に、英語教師を招聘した小学校があり、英語教科書となる書籍の寄贈を呼びかけた人々や英語の教科書を自分達で出版した人々がいたことを史料は伝えています。学校教育それ自体の環境が決して恵まれていなかった当時に於いても、英語教育の取組みがなされていたということをお伝えすることができたことでしたら幸いです。まだまだ研究の途中段階ですが、発表の機会を頂きまして、誠にありがとうございました。私の拙い発表のために皆様のお時間を賜り、また質疑応答の折には多くの貴重なご意見を賜りました。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。



◆②博く資料を研究してはいますが、発表の焦点が今一つ絞り切れていないとの印象を持ちました。発表前半部分がどういう意味を持つのか、もっと副題の内容に踏み込んで欲しいと思いました。  
<Dragon>

◆②明治初期の小学校英語教育について、その状況を綿密に研究されて具体的に示していただき、当時の英語教育への取組みの一端を知ることができました。  
<JH4DGW>

◆②私が勉強不足な点もあり、少し内容が理解できませんでした。申し訳ございません。

研究の途中ということもあり、田畑先生の発表にもバラついた感じがあるように思えました。もう少し焦点をしばったほうが良いように思えました。  
<匿名希望>

◆②非常に難しい話でしたが、昔は学力本位だったと知り驚きました。資料を示しながらの発表だったので分かり易かったです。<森田航>

◆②トビ級、実力主義、教科書の自由であった事、この明治の時代では、良い方向に児童の教育がなされていた事、諸事実を知る事により、現代の小学校教育に生かされるかということ、時代も進み、情報が多い中疑問もあるが、興味深い研究だと思います。  
<Toshico>

◆②明治の頃に小学校で英語教育がなされていたことには大変驚き、興味深かったし勉強になりました。明治の小学校で飛び級が有ったことについても驚きました。大変勉強になりました。  
<加納まり>

◆②暗唱に対して、僕自身も中学でそのように学習していました。それだけの文量に触れることができたという点で否定的には思っていないのですが、最近の子どもたちにとって「覚える」ということは楽だと感じていないように感じます。だから、その方法が重要だと思いました。  
<加藤幸村>

◆②明治初期はまだ新政府自体も体制を整える段階だったのにもかかわらず、英語教育をするために尽力している地域・学校があった事に驚いたし、感心しました。愛日小学校は個人的に、昔の職場に近く、このような資料が残っているのがわかり、興味深かった。 <岡直美>

◆②全く知らないことでおもしろかったです。こまかな資料研究をされているなど思いました。 <匿名希望>

◆②貴重な資料，データ，考察，ありがとうございます。 <日下部純江>

◆②今回の田畑きよみ先生のお話を聞いて、明治初期の教育方針について考えさせられました。「小学校優秀児を小学校に留め置かず、早い時期に中学校教育機関に進級させて教育を施す」というものがありました、「飛び級」みたいな感じがしてアメリカなどでもしていると認識しています。私は日本もそのように戻したらいいと考えます。

小さいころの英語教育はとても難しいと感じました。小さい頃に聞いた英語は修正するのはとても難しいので小学校から英語をするのであれば、日本（政府）はしっかり準備していただきたいと感じました。 <天野健太郎>

◆本日はありがとうございます。英語教育について知識もなく学会に参加するのが不安でしたが、先生のお話とても分かりやすかったです。私は英語教育が小学校で導入されることに肯定的でしたが、正直今日でわからなくなりました。しかし、英語の授業をしなければいけない状況になった際には、中高の英語免許の知識よりそれ以上の専門知識を学んで、小学生に英語を教えようと思いました。 <佐本翔子>

◆江利川先生、田畑さんの発表を興味深く拝聴しました。学校記念誌の編集に携わったことがあるので教育史は関心のある分野です。田畑さんは資料館で熱心に資料を調べて行かれたと聞きました。本日の発表からも丁寧に調査研究されていることがわかります。これからもご精進なさってください。 <匿名希望>

◆お二人の先生のご発表は長年にわたり児童への英語教育に携わってきた者にとって非常に興味深いものでした。実際に小学校で英語を勉強した人の自伝や回顧録などが残されていて本当に英語を勉強していたということがわかりました。三宅雪嶺のお兄さんが小学校で英語を教えていたことが伝記に書かれていたようですが、田畑先生はよく発見されたと感心しました。英語の勉強方法としての暗唱や英単語の練習など、現代にも通じる学習方法だと思います。暗唱について経験から述べますと、小中高どの年齢においても暗唱という学習方法が大切であると思います。チャンツ、詩、歌など年齢によって方法はちがってもたくさん暗唱することが柔らかく子供の脳に残っていくのを信じています。 <笠原美智代>

◆本日はありがとうございます。初めて参加させて頂き、大変新鮮でまた大変勉強になりました。既習の内容も整理でき、新たに学べたことにも深くうなずき、有意義な時間を過ごせました。感謝申し上げます。

しかしながら、日本の国（他国もかもしれませんが）は、国政に忠実に公立教員が従うがゆえ、本当に子どもたちにとって必要なものを見失う傾向にあるように思えました。（たてまえ>本音）

田畑先生の発表資料にありました「学校による教育レベルの格差が大きい」（明治初期）は、今現在にもかなり存在していると思いますし、（実際、我が子が高校に進学した時に思いました。）英語教育においてははなはだしいと思います。

「歴史は知恵の宝庫」、是非アクセスしたいと思いました。未知な事へのアクセスは本当にわくわくいたします。本日は、本当にありがとうございました。 <杉本孝美 (Ami)>

◆明治からこれほど英語教育が小学校から行われていたとは知らなかったので大変勉強になりました。 <野村昌司>

◆母校、愛日小学校(現・開平小)の宝、愛日文庫がタイトルにあったので、興味を持って参加しました。進取の気性に富んだ商人の働く船場で、古くから先進的な英語教育が実施されていたことを知り、感銘を受けました。教育の専門家ではありませんが、地道なフィールドワークに裏付けされた研究成果に驚きました。今後も研究を頑張ってください。 <愛日小OG>

◆本日はありがとうございました。日本でどのように英語が教えてこられたのかについて貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。歴史がくり返されている、反省が生かされていないということであれば考えていけないといけませんね。 <松本紀子>

◆江利川氏の発表は、非常にわかり易い説明で、明治時代の英語教育のことがよく理解できました。田畑氏は、当時の状況をよく把握した上で調査した、史実に基づく分析がされていると思う。 <池田和子>

◆江利川先生、田畑先生のご発表ありがとうございました。先生方の発表から今まで知らなかったことを多く学びました。英語教育は明治時代から試行錯誤を重ねてきたのですね。江利川先生の話をお聞きして教育史もなかなか面白いと感じました。明治時代の教育は当然のことながら現代の教育とは随分違うわけですからその時代の視点に立って史料を眺めなければなりません。 <南禮子>

◆今日のお話で実際小学校で教える教師は中学教育の英語を持ち得る以上の教師なるべからずという言葉がすごく胸に刺さりました。それくらい小学校英語というものはデリケートで難しいものだと改めて気付かされました。シンデレラや金のガチョウという話にはじめて出会った子どもたちはどれだけワクワクしたんだろうかと思いました。小学校のときは異文化に触れるきっかけづくりで英語を学んだらいいのではないかと思いました。英語とはじめて出会うきっかけはすごく大切であり、どれだけ良い機会をつくれるかが教員の仕事ではないかと思いました。 <小林美波>

◆この講義で一番衝撃を受けたのは、1884年の新聞で今と同じ事が書かれていたことに驚きました。早期の英語教育とするならする上でしっかりと教員を養成し、小学校の英語専門の教師を採用するなど準備をするべきだと考えています。大変貴重なお話をして頂きまして、ありがとうございました。

私事になりますが、私は拝田教授のゼミの卒業生です。拝田教授の講義でも江利川先生のお話を聞いていました。私は拝田先生の講義、授業を受けて「感動」したことがきっかけとなり英語教師を目指そうと思いました。私も生徒と一緒に「感動」できるような英語の授業をしていきたいと思います。ありがとうございました。

<森田真成>

## >> 2015 年度 研究例会の予定

研究例会は5月を除く奇数月の「第3日曜日」に開催します。ただし、今年度9月については秋の大型連休と重なり交通手段や宿泊施設の確保が困難と思われるので「第4日曜日」である27日に移動します。なお、7月・1月・3月も連休に当たりますので、遠方よりお越しの方は交通・宿泊に充分ご注意ください。

- ◆ 第253回研究例会 2015年7月19日(日) 東京都で開催予定
- ◆ 第254回研究例会 2015年9月27日(日) 広島市で開催予定
- ◆ 第255回研究例会 2015年11月15日(日) 東京都で開催予定
- ◆ 第256回研究例会 2016年1月10日(日) 東京都で開催予定
- ◆ 第257回研究例会 2016年3月20日(日) 大阪市で開催予定

## )&gt; 事務局よりお知らせ

全国大会は5月 ツツジの香り残る久留米でお会いしましょう  
～第31回全国大会(九州大会)のご案内【続報】～

2014年5月16日(土)・17日(日)

久留米工業高等専門学校(福岡県久留米市小森野1-1-1)

第31回全国大会については、3月に大阪で開催された理事会でプログラムを決定しました。会場は、福岡県久留米市にある久留米工業高等専門学校をお借りします。JR久留米駅からバス12分、西鉄久留米駅からバス20分の立地です。第2日(日曜日)の午後には、福岡市総合図書館で修猷館図書館・史料館所蔵の史料および図書の「資料展観」も企画されております。詳細は別紙をご覧ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## ◎ 今からでもお申し込みください

- ・発表の申し込みは締め切りましたが、懇親会・資料展観を含む全国大会への参加申し込みは今からでも間に合います。連休明けの5月7日(木)まで受け付けますので、会報267号とともにお届けしたハガキがお手許にある方はどうぞご投函ください。その際、恐れ入りますがご自分で52円分の切手をお貼りください。電子メールでのご連絡もお待ちしております。
- ・予定が変わりご参加いただけるようになった方も、やはり郵便か電子メールで実行委員会までご連絡ください。ご都合によりご参加いただけなくなった方も同様をお願いいたします。

## ◎ ご参加の際には必ずご一報ください

- ・大会当日は、受付で発表要旨集・学会誌・会員名簿・名札・領収証等をお渡しします。準備の都合がありますので、ご参加の方は必ず事前にご一報くださるようお願いいたします。
- ・突然お越しになることは、受付の混雑を招き、他の方々をお待たせする原因ともなります。今回は会員外の現地参加者も見込まれますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

## ◎ 資料展観にご参加を

- ・今回、現地実行委員会の企画と福岡市総合図書館のご協力により、久しぶりの資料展観が実現しました。貴重な機会ですので、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。
- ・大会会場から資料展観会場まで、マイクロバスをチャーターします。おひとり1,000円を申し受けますが、公共交通機関をご利用になるよりもはるかに安価で便利です。どうぞご利用ください。

久留米高専(大会会場)13:30出発 → 福岡市総合図書館(資料展観会場)14:20到着予定

## ◎ 参加費等は事前にご送金ください

- ・すでにお申し込みの方も新たに申し込まれる方も、大会に参加される方は、次の費用のうち該当するものを合計し 5 月 7 日 (木) までに以下の口座へご送金ください。
- ・恐れ入りますが、払込取扱票の通信欄に送金額の内訳をお書きください。

(1) 大会参加費 (一般) : 2,000 円      (2) 大会参加費 (学生) : 500 円  
 (3) 懇親会費 : 6,000 円      (4) 資料展観バス代 : 1,000 円  
 【口座番号】 00930-3-235138    【口座名称】 髙田 清

\* 学会会費の口座とは異なりますのでご注意ください。

## ◎ 宿はご自分でお取りください

- ・宿泊をご予定の方は、各自でお早めにご予約ください。
- ・各自で宿をお選びいただくのが原則ですが、現地実行委員会では懇親会場の「ブリヂストンクラブ」に併設された宿泊施設について 5 月 16 日 (土) 宿泊分の 6 部屋を仮に押さえております。こちらへの宿泊をご希望の方は 4 月 24 日 (金) までに実行委員の隈慶秀理事にお申し込みください。なお、部屋数に限りがありますので、ご希望に添えない場合にはご了承ください。

ブリヂストンクラブ (福岡県久留米市城南町 5-1)  
 1 泊 3,780 円 (朝食は含みません)  
 お申し込み・お問い合わせ : 隈慶秀 ykuma3@hotmail.com

## ◎ 発表予定者にお願ひ

- ・印刷版の発表資料をお持ちになる場合は、各自で 60 部をご用意ください。
- ・会場にプロジェクトは備え付けられています。予備のパソコンも用意してありますが、プレゼンテーション・ソフトで特殊なフォントやレイアウトをお使いの場合には、うまく表示されない場合もあります。できるだけ普段お使いのノートパソコン等をお持ちください。

## ◎ 大会・懇親会への参加申し込み、申し込み事項の変更等 大会関係の連絡先

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前 3-2-1

四天王寺大学教育学部 髙田清

電子メール : tufs3haida@hotmail.com

\*まことに勝手ながら、お申し込みやお問い合わせには  
 郵便または電子メールをご利用くださいますようお願い申し上げます。



## 》理事会を開催

第 252 回研究例会に先立ち、2015 年 3 月 15 日 (日) 11 時より例会会場である四天王寺大学あべのハルカスサテライトキャンパス会議ブースにおいて理事会が開催され、以下の件が話し合われました。会員のみなさまにご報告・ご承認いただくべきことがらについては、5 月の全国大会時に開催される会員総会にお示しいたします。

### 1. 第 31 回全国大会 (九州大会) のプログラムについて

→実行委員会の提案を受け確定しました。詳細は別紙の通りです。

### 2. 学会誌について・学会賞について

→論文審査の結果および学会誌発行の進捗状況について、担当者より報告を受けました。

今後、投稿規程の明確化とあわせ、新しい表彰制度を設けることを検討します。

### 3. 内規集について

→担当者より報告を受け、会則の不備を是正することと関連付けながら、引き続き検討・整備することを確認しました。

### 4. 2013 年度会計について

→事務局より報告しました。最終的には 3 月末をもって締め、全国大会の前に会計監査を受けることとなります。

### 5. 2014 年度年間計画について

→研究例会・理事会・論文審査委員会の日程を決定しました。研究例会についてはこの会報の 10 ページをご覧ください。

### 6. その他

→言語教育史研究の国際ネットワークである Research Network for the History of Language Learning and Teaching (HoLLT) に加入することを決めました。

→これに関連し、学会の英語名に learning の語を加え、Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan (略称: HiSELT) と改めることを決めました。

→新年度早々に学会事務局を移転することを決めました。

## 》名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、この会報を発行する時期に合わせ、すべての会員のみなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。締切までにご返送いただいた分については、5 月の全国大会時に発行する「会員名簿」に反映させていただきます。

例年、「名簿原票」は 3 月末に発送しておりましたが、事務局を移転する準備等の都合により、今年度については 1 週間ほど遅れが生じたこととお詫び申し上げます。ご多用の時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、ご確認のうえご返送くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。会計処理の不手際により、事務局からのお願いが遅れたみなさまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

## 》新年度の会費について

新年度の会費については、以下の要領でお納めくださいますようお願い申し上げます。

- (1) 全国大会に参加される場合：大会当日、受付にてお納めください。領収証を用意してお待ちしております。その場で引き換えに新しい《学会誌》と《会員名簿》をお渡しいたします。
- (2) 全国大会に参加されない場合：大会終了後、新しい《学会誌》と《会員名簿》を「ゆうメール」でお送りします。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封いたしますので、よろしくご協力ください。

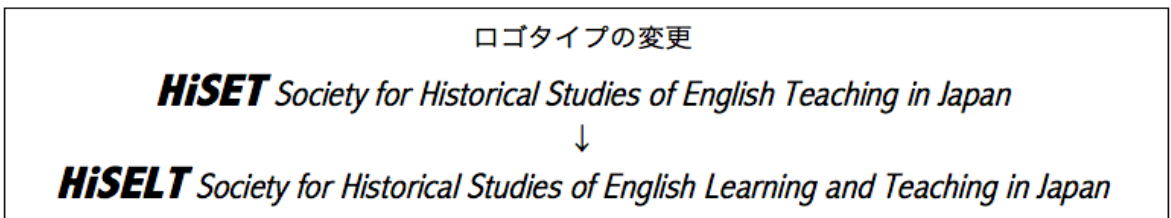
なお、2014 年度までの会費が未納の方には《学会誌》と《会員名簿》はお送りせず「会費納入のお願い」のみを郵送させていただきます。

## >> 英語教育史フォルダ

- ◆竹中龍範 (2015) 「高橋五郎『最新英語教習法』をめぐって」『言語表現研究』（兵庫教育大学言語表現学会）第 31 号, 1-12.
- ◆Watanabe, Tsutomu. (2015) "On Describing Tag Questions in English."『語学研究』（拓殖大学言語文化研究所）第 131 号, 1-32.

## >> 今、**HiSET** は **HiSELT** へ

9 ページの理事会報告にもありますように、日本英語教育史学会の英語名を英語教育研究の世界の潮流に鑑み Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan と改めることにしました。5 月の全国大会の際に開催される会員総会でみなさまにご承認いただければ、会のロゴタイプは次のように変更されます。



新しい名称に象徴されるように、今後も学習者の視点を忘れない研究活動を続けてまいります。どうぞよろしく願います。

**EDITOR'S BOX** 4 月に入って、秋田も徐々に春らしくなってきました。秋田の冬は例年どんよりした天気の日がずっと続くのですが、今年の秋田市は暖冬で、特に 2015 年に入ってから道路脇の雪を見る機会がほとんどありませんでした（一方、秋田県の北部は記録的な大雪で、かなり大変だったようです）。ただ冬が暖かかった分、春が来ても例年ほどの感動はありません。冬の厳しさを乗り越えたからこそ春の到来の喜びがあるのだということを感じた次第です。（若）